安住仁志の議会報告
（2008 年 12 月定例会）

智頭町議会議員・安住仁志後援会
智頭町奥本１２　☎７８－０５１１

これからの町政
文化行政にも　もっと光を

町政の的確な舵取り、歳出の見直しが求められる中、首長がどういう価値判断に立つかで、経費のやりくり、再点検の方向性が変わります。方向性の選択に際して重要なのは、「町民の豊かさ」の最大化です。そして、豊かさでは、物と並んで心の豊かさも重要です。そうした考えから、安住は今回の定例会では、以前から指摘している小中学校の校舎改築や病院運営の問題解決に加え、文化行政にも十分に意を注いでいただけるよう町長にお願いしました。

わが町の財産、智頭枕田遺跡

まず、多くの自治体にならい、「智頭町文化振興条例」の制定についての考えがあるかどうかを聞いたところ、「設置の必要性について模索していく。今すぐは制定の意向がない」と回答。続いて、安住が「智頭枕田遺跡」が文化振興で求められる自治体〝らしさ〟の最たるものだとして、この遺跡が西日本最大の縄文遺跡であり町民の貴重な財産であると同時に愛着と尊敬の対象に値することなどを強調。その上で、智頭町の貴重な文化財の活用について聞くと、「貴重な文化財と認識している。遺跡の記録と文化庁への調査報告書の完成を目指している」と答えました。

遺跡出土品の保存と活用については石谷家住宅や県博物館などで、機会あるごとに展示しているとしましたが、遊休施設の利用などで常設展示を目指してほしいとする安住に確約は返しませんでした。

その枕田遺跡について、寺谷町長は、４年前、遺跡公園の整備を約束しています。

安住「約束は今も生きているのか。当時の新聞記事によると、『町長は周辺敷地内に遺跡公園を整備する意向を明らかにした』とある」

町長「忘れていない。今も気になっているが、遺跡の膨大な資料の整理を急ぐのに精一杯で公園にまで考えいかない」

失いたくない「心の豊かさ」

このように、枕田遺跡に関する答弁では見るべき成果は得られなかったが、町長は、**「歴史文化を軽んずれば国滅ぶ。文化・歴史の重要性は認識している」**と付け加えました。文化行政とは、伝統文化の保存と継承、創造的芸術文化の振興を指します。寺谷町政において、経済性を追求するあまり、文化行政を切り捨ててしまうことのないよう、クギを刺せたのではないでしょうか。